

## 「ロープウェイ遊び (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今回の「ロープウェイ遊び」は、「作って遊ぶ活動」の中でも、最も単純な構造・遊びの一つだろう。名刺大の厚紙に絵を描いて、クリップを2こつけて、斜めに張ったひもにぶらさげて、滑らせるだけの活動だ。こんなにも単純で短時間でできる活動なのに、子どもたちはなぜか夢中になって取り組む。私は過去にも何度かやってみたが、3年生ぐらいまでの子どもたちには、例外なく好評だった。



厚紙に絵を描き終わると、2個のクリップをセロテープで固定する作業だ。ほとんどの子は自分でできるが、できない場合は手伝ってあげた。



厚紙には「ロープウェイの車両」を描くように指示をしたはずなのだが、1年生の場合、必ずしもそうはならない。「これはロープウェイの絵じゃないでしょ」と突っぱねてはいけない。例えばこの子の画は、「空を飛ぶもの」というテーマということで納得した。



あとは、教室に張ったひもにぶら下げるだけだ。しかしこの動作が、1年生の子どもにとっては、意外に難しい。難渋している子どもが結構多かった。



このクラスではなぜか「100円シリーズ」が多い。私が用意した見本が「料金100円」だったこと、担任が「100円教育」を推進していることが原因だろう。



ひもは、細くて丈夫なものが良い。たこ糸でも良いが、工事現場で使う「水系」という、黄色い蛍光色のひもが一番適している。張る角度は30~40°が良い。糸の端は、なるべく重い机や椅子の脚に結んで、引く圧力を調整できるようにすると良いだろう。